



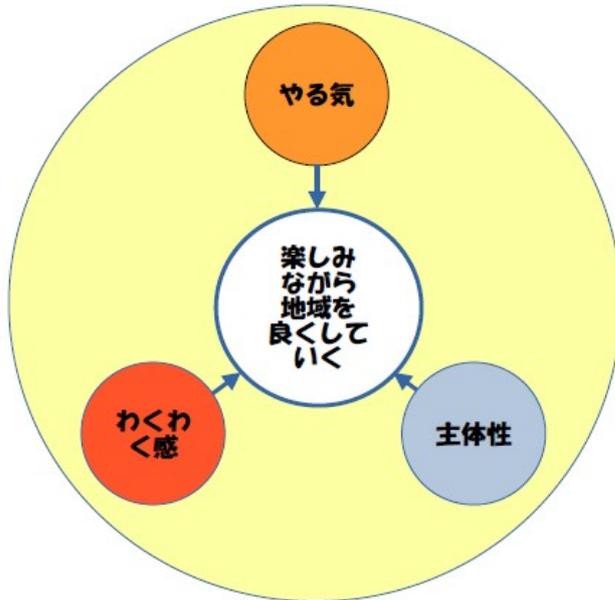
里山の未来は、子ども達の手の中に 「ボランティアのお誘い」



NPO法人つるがしま里山サポートクラブ

ボランティアを楽しむためには

ボランティアを楽しむために



大切な3つの要素

1. やる気がなければ何も始まらない。
2. 主体性をもってボランティア活動に取り組むこと
3. 取り組み続けるためには、ワクワク感がないといけない。

活動の目的

若い世代や地域のために、楽しみながら地域をよくしていく、生き生きとしたボランティア活動を継続するためには、このような感覚が実はすごく重要で、興味や実体験を通じて、ボランティア参加意識が高まると思います。

< ボランティア活動には > 臨機応変に対応する事が必要

日本には、400年経っても崩れない石垣の工法があります。
石の個性に合わせて配置し、力を分散させる

「穴太衆(あのうしゅう)積み」と呼ばれる方法です。石の個性を生かしたこの仕組みは、時を超えて受け継がれる知恵とも言えるでしょう。

問題意識を持つ

- ・ 地域ニーズを知ること
- ・ 地域の特性や必要とされるニーズは何か?

相手を良く知ることが必要

- ・ 仲良くなることから気づくことが多い

何が問題

- ・ 障害者への支援とは
- ・ 高齢者への支援とは
- ・ 子ども達への支援とは
- ・ その他活動の支援とは

自分たちの出来ることは、何か?

- ・ 足りない部分を他の人と一緒に取り組もう



このため、現場では一つひとつの石の個性を判断しながら積む必要があり、設計図では表現できない臨機応変な対応が求められます。

ボランティア活動も同じで、参加する人の顔ぶれに応じて臨機応変に対応することが大切です。多くの課題がある中で、社会で培った専門性や経験をボランティア活動に活かし、仲間と協働することで、課題解決に役立てることができます。

ボランティアの社会的役割

社会における生活には、多種多様なサービスが必要です。これらのサービスは、有料サービスとして企業活動により提供されるものと、最低限の生活維持のために税金で提供されるものに大別されます。しかし、その中間領域には、企業が採算の都合で提供できないサービスや、法律の規定から外れた人々に提供されないサービスが存在します。

このため、企業や行政のサービスが及ばない中間領域では、必要なサービスを提供する主体が不足しており、市民自らがサービスを生み出すことが求められます。この領域は、一人ひとりの思いによる多様なボランティア活動によって支えられています。したがって、ボランティア活動は、企業や行政と市民の連携を図りながら、効果的に継続していくことが重要です。

市民・企業・行政の役割分担

生活に必要なサービスは、行政、企業などにより提供されています。

1. 企業は、有料でサービスを提供しています。

2. 行政の基準外や有料サービスを受けられない人々を支える人が大切です。ボランティアなど市民により支えていく行が必要で、地域の絆が大切です。

3. 行政は一定の基準に基づいてサービスを提供しています。

●市民のニーズやレベルに応じて、様々なサービスが提供される。

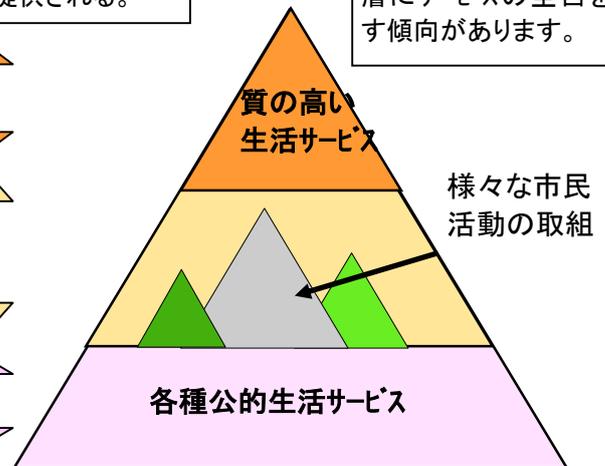
サービス提供者

■企業サービス
有料サービス

▲ボランティア
有料～無料サービス

●行政サービス
公共サービス

市場経済社会は、中間層にサービスの空白を残す傾向があります。

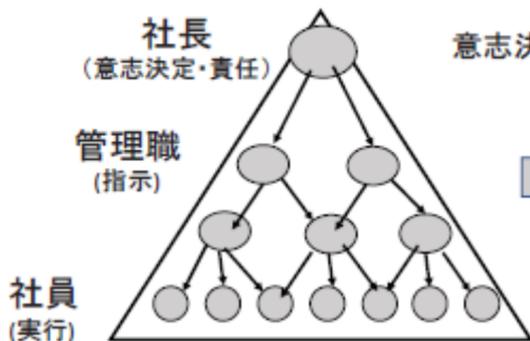


楽しいボランティア活動の仕組みとは

ボランティア活動は、一人ひとりの思いから始まり、その充実感や達成感が活動の喜びとなります。ボランティアグループは、共通の思いを持つ仲間が構成され、活動を通じて社会や人々の役に立つことを目的としています。

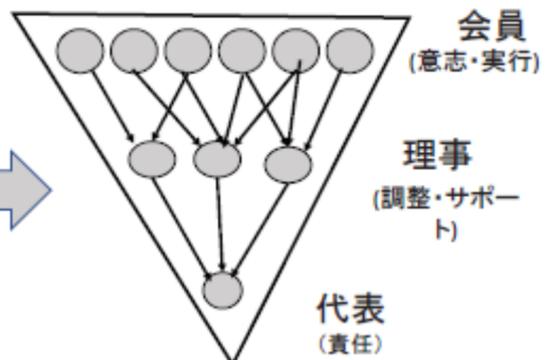
企業とは異なり、ボランティアは会員自らの意思で活動し、理事や代表はその活動を支えるサポート役として参加しています。こうした活動を通して、地域や人々とのつながりを深めることができます。

・会社などの仕組 (利潤追求など効率性を求める活動)



・ボランティアの仕組

(一人一人の主体性・興味・わくわく感による活動)



設立の経緯

鶴ヶ島市の里山の減少を防ぐために、市民管理制度による「市民の森」の指定を進め、全国一の面積を誇っていました。現在は、千葉市に抜かれ、全国第二位の都市で、人口あたりで見ると1.9m²で全国一の水準となっています。

この市民の森の維持管理を市民団体で実施する事を目的に、市の呼びかけで2002年に始まったのが「つるがしま里山サポートクラブ」の活動です。

設立目的

市内及び近隣地域に残された樹林地(以下里山という)の保全回復活動を通して、会員相互の親睦と良好な里山を未来に継承することにより、市民だれもが健康かつ安心して生活を継続出来るまちづくりを推進していくことを目的とする

組織

特定非営利活動法人
つるがしま里山サポートクラブ

任意団体設立 2003年 4月 1日
NPO設立年 2005年12月28日
会員数 63名

HP: <http://www.satoyamasupport.com/>

・里山 URL



活動の場

市内にある「市民の森」(市民管理制度に基づき、地主・市・団体との契約により運営)6ヶ所のうち、3ヶ所の市民の森と太田ヶ谷の森、計4ヶ所の森の維持管理を行っています。

つるがしま里山サポートクラブの背景

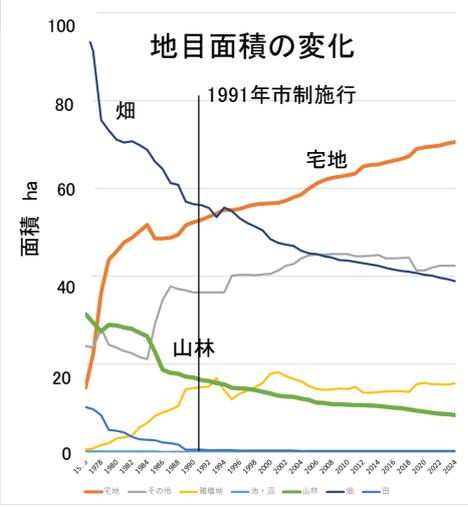
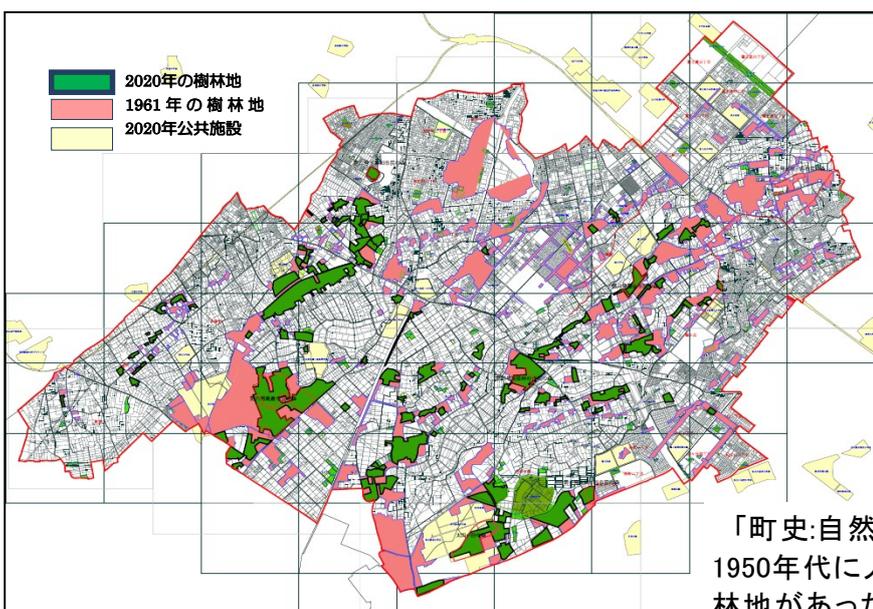
市民の森は、市民緑地契約制度に基づき、緑地保全・緑化推進法人(みどり法人)を含む地方公共団体が設置・管理の主体となり、市民団体などによる管理が進められる仕組みです。

鶴ヶ島市はこの制度の発足初期から取り組み、全国でも最大規模の13.2haを有していました。その後、第3号の鶴ヶ丘市民の森は平成23年に、第7号の下新田市民の森は平成29年に指定が解除され

市民の森の変化

ました。一方、平成15年には新たに藤金市民の森が開設されました。これにより、13.3haあった市民の森は、令和7年に高倉市民の森の一部が解約され、現在では6か所、合計6.7haとなっています。

つるがしま里山サポートクラブは、このうち2か所で1.8ha、さらに太田ヶ谷の森5.6haを合わせて、計7.4haの維持・保全活動に取り組んでいます。



「町史:自然条件編Ⅱ 鶴ヶ島の植物」によれば、1950年代に人口が増加し始めた頃、約300haの樹林地があったと言われています。その後、人口の急増に伴い森林が破壊され、当時から里山の減少が危惧されていましたが、2024年には85haと約1/3となってしまいました。

里山サポートクラブの活動内容

里山の活動目標

里山を保全し、次世代へ継承したいという目的を実現するため、3つの目標に取り組んでいます。

目標1 里山の保全活動

里山の生態系を保護・維持するため、他の環境保護団体や地域の自治会、支え合い協議会と連携し、草刈り、ごみ拾い、伐採、野生生物の調査などの活動に取り組んでいます。また、飯盛川にホテルの再生に取り組んでいます。

また、太田ヶ谷の森や道路沿いに小彼岸千本桜構想の植林活動にも取り組んでいます。

目標2 里山保全の普及活動

市民に身近な緑を提供することは、子どもたちの体験活動にも大きな効果があります。幼少期から青年期まで、多くの人と関わりながら体験を積み重ねることで、「社会を生き抜く力」に必要な基礎的な能力を養えると考えられています。つるがしま里山サポートクラブでは、子どもたちの自然体験学習や市民ボランティア活動を通じて、里山を楽しみながら森の生態系や環境への影響を学ぶ取り組みを行っています。これにより、里山の重要性への理解を深めるとともに、地域コミュニティ意識の向上にもつなげています。

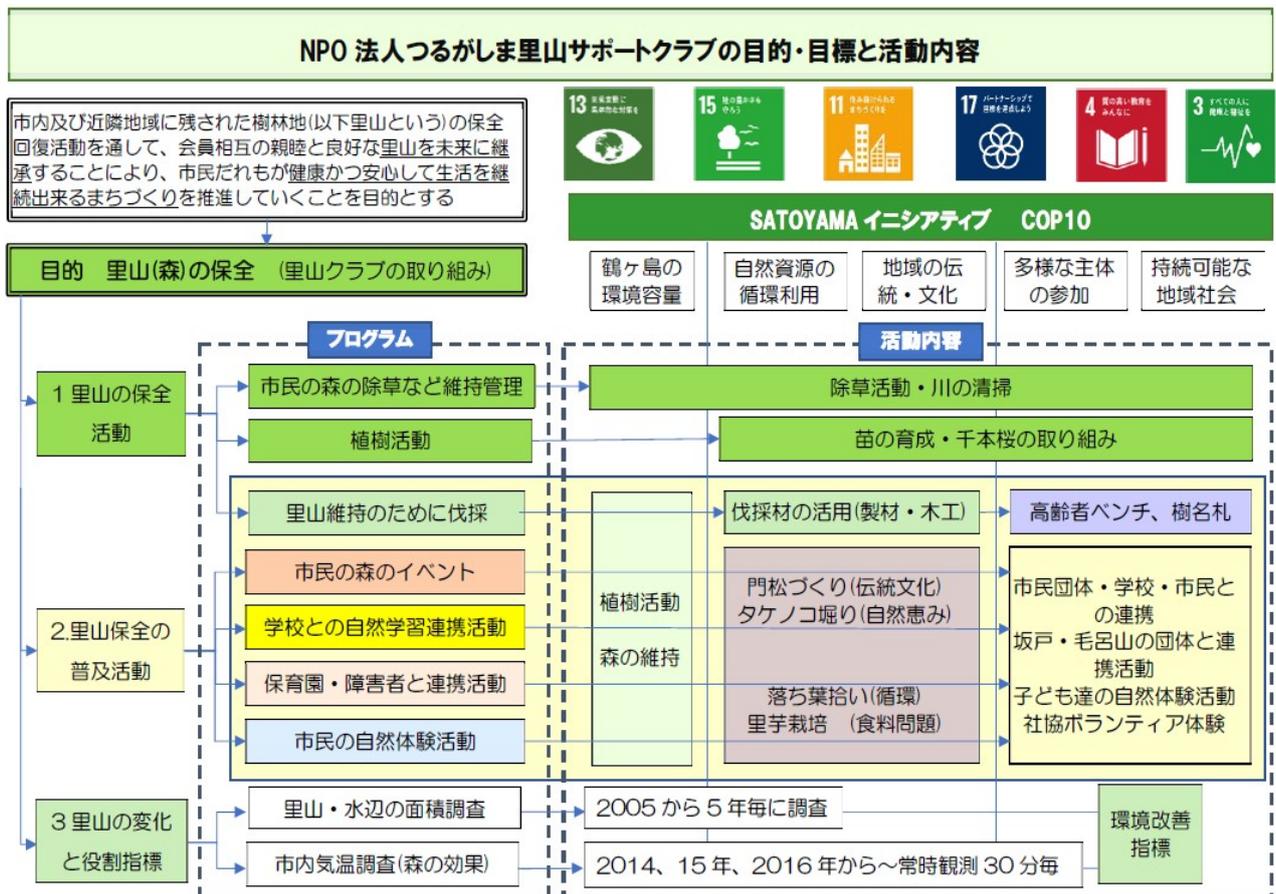
目標3 里山の変化と役割指標

2005年に市の里山の調査を基に、5年ごとの変化を会員の参加によって継続して調査しています。また、国土地理院の航空写真を参考に、1961年以降の5年ごとの里山の変化を整理しています。特に、市民管理制度(借地)による市民の森が、相続などの影響で契約解除されるケースが増加し、市民の森は半減しています。

これに対する対策が求められています。

また、里山の森での体験を通じて、子どもたちはコミュニケーション能力、問題解決力、レジリエンス(諦めずに挑戦する力)などが向上する効果を実感しています。

地域の気温に関しては、市民の森、宅地、畑などの用途別に市内24カ所で常時観測体制(30分間隔)を構築し、2016年から継続しています。近年、最高気温が40℃を超え、最低気温が零下10℃を下回るなど、気温の変化が極端になっています。また、35℃以上の時間が前年に比べて3割以上増加しています。



目標1 里山の保全活動

1-1 市民の森の維持管理活動

3箇所市民の森の整備と太田ヶ谷の森の草刈り、老木伐採、清掃活動を中心に維持保全活動に取り組んでいます。



1-2 植樹活動

① 太田ヶ谷の森の植林や道路沿道に小彼岸1000本桜を目標に植林活動に取り組んでいます

目標2 里山保全の普及活動

2-1 子ども達の自然体験学習

子どもたちが自然体験を通じて、大人になったときに自分の子どもを森に連れて行くような人になってほしいと願っています。



保育園の自然体験



小学校の総合学習



ツリーイング



ロープ渡り



アペルトと自然学習



子ども達の自然体験



焼き芋



竹細工

2-3 自然体験や歩きやすい街づくり活動

市民のボランティア体験活動や、伐採木で製作したベンチの障がい者施設や高齢者施設への寄贈を行うとともに、高齢者に優しい歩きやすい街づくりにも取り組んでいます。



ホタル放虫会



伐採木によるベンチ

2-4 伝統体験活動

古くから竹林は、タケノコの栽培や門松、竹細工の材料として利用されてきました。これらの体験活動を通して、子ども達は里山の役割について学んでいます。



門松づくり



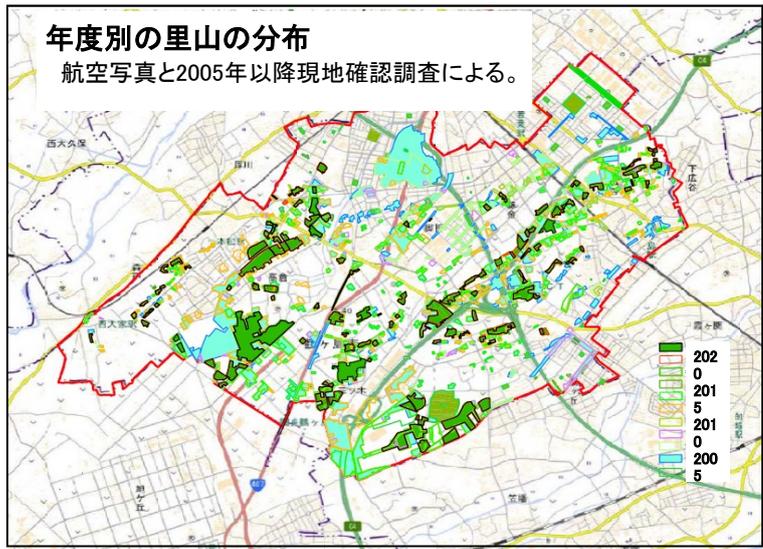
竹の子掘り

目標3 里山の変化と役割指標

3-1 20年間の市内の里山面積の調査

鶴ヶ島市は1998年に「つるがしま緑のまちづくり計画」を策定し、市民管理制度を活用して6ヶ所の「市民の森」を指定しました。かつては全国最大の面積を誇り、人口一人あたり1.9㎡で日本一の緑地面積を持っていましたが、令和7年に1号と6号の一部が解除され、現在は0.9㎡と半減しています。

市内では住宅地や工場、物流施設の立地が進み、里山面積も減少しています。2005年には149haあった里山は、2025年には98haにまで減少し、年間の減少量も2～4haから増加傾向にあります。このままでは、あと10～15年ほどで里山が消滅する可能性が高く、具体的かつ早急な保全対策が不可欠です。



3-2 鶴ヶ島市の気温調査

1. 年次別気温変化の特性

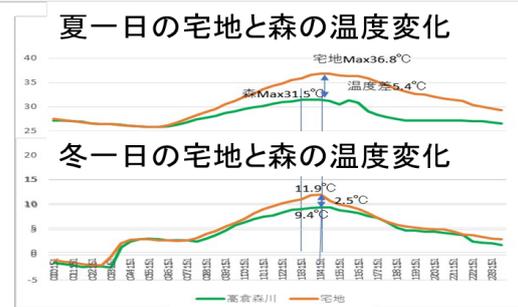
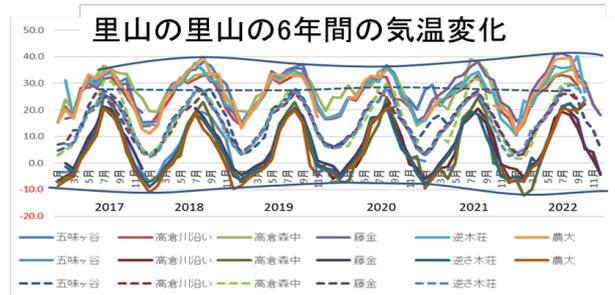
2017年から8年間にわたり、20カ所での常時観測を継続しています。この期間の温度変化の特徴として、最高気温と最低気温の差が拡大していることが挙げられます。また、35℃以上の猛暑日が観測される時間が倍増していることも確認されています。

2. 土地利用別気温変化の特性

最も温度変化が大きいのは、畑、宅地、森の順で、それぞれ2～3℃の差が見られます。特に森の温度は、夏季において畑や宅地と比べて5℃、場合によっては最大で10℃ほど低くなっています。

3. 森の気温効果

一日の温度変化を見ると、森は宅地に比べて安定しており、特に夏季には宅地との温度差が5℃にもなることがあります。森の温度は変化が少なく、安定していることが特徴です。



3-3 鶴ヶ島市の里山保全対策の課題

里山の保全には、地域づくりや人材育成の視点からの取り組みが不可欠です。具体的には以下の課題があります。

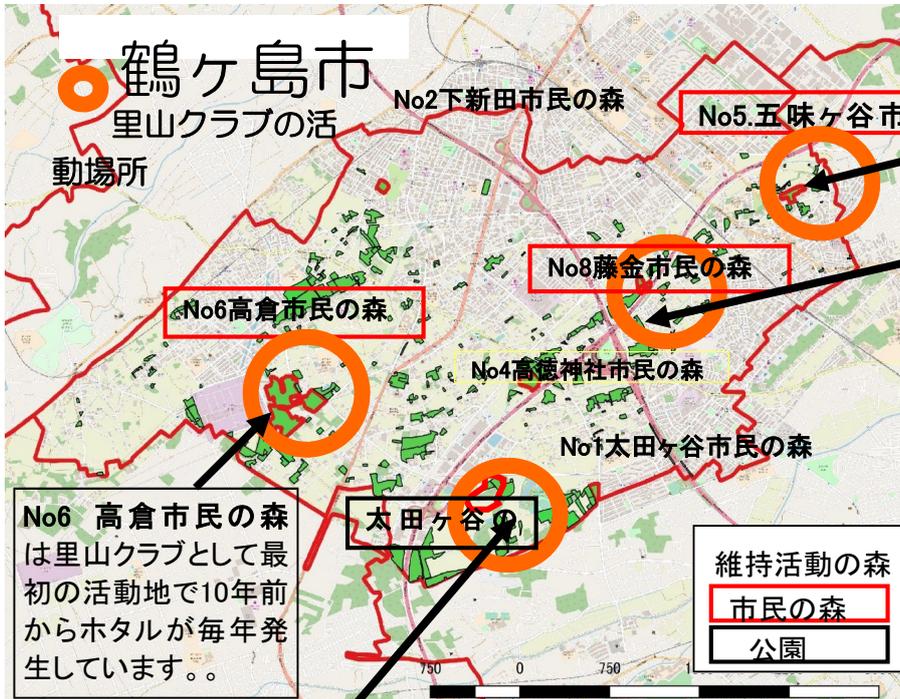
- 1.都市と里山のネットワーク化 行政と連携し、都市の緑と里山をつなぐネットワークを整備するとともに、荒れた里山の整備を進める仕組みづくりが求められます。
- 2.人材育成と伝統技術の継承 里山の利活用を推進するため、指導者や伝統技術の継承者の育成、ボランティア体験、学校との連携が必要です。
- 3.市民活動の拡充 「市民の森」を市民活動の場として活用し、市民ボランティア団体や幅広い市民活動団体

との連携を強化することが求められます。

- 4.市民参加の促進 市民、企業、行政が協力して里山保全活動を進めることが期待されますが、市民一人ひとりの参加を促すため、環境教育や普及啓発が重要です。
- 5.多様な主体の協力 企業や大学を含めた多様な主体の協力を得るための普及活動や、地元企業や自治会など関係者を結びつける仕組みづくりが必要です。
- 6.「緑の基金」の創設 市民の森を保全・買収するため、行政、企業、市民が連携して「緑の基金」を設立する仕組みが求められます。

つるがしま里山サポートクラブの活動場所

市民の森



No5 五味ヶ谷市民の森は竹の子掘り、門松づくり、自然体験イベントに取り組んでいます。

No8 藤金市民の森は、藤小学校や子ども達との自然体験学習に取り組んでいます。

No6 高倉市民の森は里山クラブとして最初の活動地で10年前からホテルが毎年発生しています。

太田ヶ谷の森は、公園内の清掃

鶴ヶ島市の市民の森 等		2025年現在
名 前		面積 m2
第1号太田ヶ谷市民の森		3,037
第2号羽折稲荷神社市民の森		6,700
第4号高德市民の森		15,791
第5号五味ヶ谷市民の森		6,856
第6号高倉うきうき市民の森		23,970
第8号藤金市民の森		10,441
市民の森合計		66,795
太田ヶ谷の森（公園）		55,593

■ 里山クラブが管理に参加

第5号 五味ヶ谷市民の森

この市民の森は、設立以来、地域の市民とともに活動を続けてきました。森には竹林が広がり、門松作りや竹の子掘り、竹細工の材料提供など、里山ならではの体験を楽しむことができます。さらに、子どもたち向けの自然体験イベントも開催され、四季折々の里山の魅力に触れながら、楽しく学べる場所となっています。



第8号藤金市民の森

この森は、地域の環境団体の要請により市民の森として誕生しました。常緑林と落葉林が広がり、隣接する大谷川の水辺と豊かな緑に恵まれた貴重な自然空間です。2018年からは、藤小学校の生徒たちの自然学習の場としても活用され、子どもたちの体験学習に欠かせない森となっています。

しかし現在、大谷川の改修計画が進められており、子どもたちが利用できる水辺が失われる危険性があります。さらに、藤金市民の森に接して都市計画道路の整備が始まっており、この森は開発の強い圧力にさらされています。かけがえのない自然環境と学習の場が失



小学校自然体験学習



大谷川体験



竹細工

第6号高倉市民の森

高倉市民の森は、つるがしま里山サポートクラブが最初に取り組んだ市民の森です。ここでは多様な市民団体と連携したイベントが開催され、クロスカントリー大会などを通じて、市民活動団体の協働の始まりの場となりました。また、「飯盛川清流復活大作戦」では、川沿いの地域住民の参加を得て清掃活動を実施しています。さらに、12年前から取り組んできたホタルの再生活動により、ホタルの発生が確認され、現在も継続してその姿を見ることができます。



飯盛川清流復活大作戦

参加者の記念写真

ホタルの復元

22年間の活動の中で、最も大きな自然保護の成果は「高倉の森におけるホタルの復元」です。活動初年度からは「飯盛川清流復活大作戦」と題し、年2回の清掃活動を継続しており、昨年で44回目を迎えました。しかし、市民の森の契約解除により、現在は立ち入りができなくなっています。一方、市内の大谷川でも定期的な清掃活動が行われており、地域の自治会や住民が積極的に参加しています。飯盛川でのホタル復元は貴重な成果であり、その経験を活かして大谷川でも復元活動に取り組んだ結果、令和7年には自然発生のホタルが確認されるまでになりました。



乱舞するホタル

太田ヶ谷の森

太田ヶ谷の森は、旧県立農業大学の移転跡地約39haを工業団地として開発する中で、5.5haの公園として整備されました。既存の樹林地や竹林を含む森林公園として整備が進められており、公園の維持管理は、市内の環境保全市民団体が構成される「グラウンドワーク」が行っています。つるがしま里山サポートクラブも、維持管理活動に参加しています。

当クラブでは、道路沿いの小彼岸桜の植栽や、大谷川源流北側地区の植栽に取り組んでいます。これまでに、市制30周年記念の植樹、伐採木の処理、広場の除草などを実施してきました。今後は、ロボティクセンターや工業地への小彼岸桜の植栽を予定しています。



記念植樹



小彼岸桜の植樹



市制30周年記念碑設置

つるがしま里山サポートクラブの主な活動内容

NPO法人つるがしま里山サポートクラブは、自然と人が共生できる仕組みづくりを目指しています。

地域住民が参加できる活動を通じて環境保護への意識を高めるとともに、里山の持続可能な利用を通して地

域の魅力を発信し、鶴ヶ島市の自然環境の保全と活性化に寄与することを目標としています。さらに、次世代へ里山の価値を継承していくことを大切にしています。

1. 里山の保全・再生:

里山の森林整備、植樹活動、草刈り、伐採などを行い、里山環境を健全に保つための活動を実施しています。また、周辺市町の里山保全団体との連携活動をしています。

2. 環境教育・自然体験:

地域の子どもや住民に対し自然体験や環境学習の機会を提供。自然観察会、工作教室、ワークショップなどを通じて、里山の生態系や自然の大切さを伝えています(里山の面積調査(5年毎)、気温調査)

3. 地域との協力・連携:

地元の自治体や学校、他の団体と協力し、地域活性化のためのイベントやプロジェクトを企画。地域の住民が参加できるような交流の場を提供し、環境保護活動を広げています。

4. ボランティア活動:

一般市民や地元のボランティアを募り、里山の清掃や保全活動に参加してもらい、環境保護の輪を広げる取り組みを行っています。

5. イベントの開催:

年間を通じて自然に触れることのできるイベント(自然観察会、里山体験イベントなど)を開催し、地域の人々と自然のつながりを深める活動をしています。

市民の森の維持管理・植樹活動
小彼岸千本桜
ホタルの再生

子どもたちの
自然体験学習
里山調査
気温調査

大谷川清掃活動
福祉ベンチ
づくり

市民、学生、生徒の
ボランティア
体験

市民の森の
イベント
里山体験会

小彼岸千本桜

東京都東村山市で約2,000本の小彼岸桜の苗を育て、植樹の経験を持つ橋本さんが鶴ヶ島市に移住され、同市の運動公園北側にある小彼岸桜並木を目にしたことをきっかけに、「鶴ヶ島でも桜の植樹ができないか」との提案がわがクラブに寄せられました。この提案を受け、2017年から「小彼岸桜千本構想」を掲げ、継続的な取り組みを開始しました。まず、旧農業大学校跡地に開園した「太田ヶ谷の

森」(約5.5ha)の北側道路沿いに59本の小彼岸桜を植樹しました。さらに、立地企業のIHIがこの構想に賛同し、道路沿いに植樹を実施。加えて、新設工場の敷地や県のロボテックセンター沿道にも協力を得て植樹が進められています。これらの取り組みにより、運動公園や太田ヶ谷公園周辺には桜のトンネルが形成されつつあり、将来的には鶴ヶ島の桜の名所となることが期待されています。



小彼岸枝の採集



鉢に移植



苗の育成



畑へ移植



東市民センター植樹



太田ヶ谷に苗を運搬



小彼岸桜植樹



記念植樹

大谷川の清掃活動の取組

市内には3本の川があり、東大谷川は農大の湧水を源流として市の東部を流れ、西大谷川は日高市から市の中央部を経て越辺川に合流し、最終的に東京湾へと注ぎます。

つるがしま里山サポートクラブは「川の里親制度」に参加し、約20年間にわたり大谷川の清掃活動や生物調査を続けてきました。大谷川は市内で唯一自然が残る川であり、自然型河川として整備する計画も進められており、市民や子どもたちが親しめる

水辺空間の創出が目指されています。

また、近年の異常気象による降雨量の増加を踏まえ、大谷川の整備においては浸水対策や地域全体での防災対応が重要視されています。国土交通省は、大雨に備えた河道幅の拡張や調整池の設置、住宅地のかさ上げなどを提案しており、今後は河川整備にとどまらず、地域全体での構造的な取り組みが求められています。



自然豊かな大谷川



清掃活動



ゴミが一杯



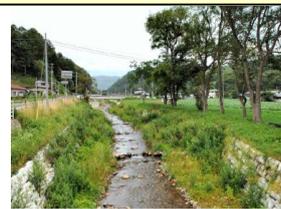
子ども達も参加

自然型川の提案

河川法の河川の基準を元にしてはいますが、この考え方は、より市民に密接に関係する「川」の整備に活かされるべきだと考えます。

大谷川の整備計画でも、このような基準を活用してほしいものです。

(多自然型川づくり基本指針)



子ども達の自然体験のすすめ

森と自然を活用した保育・幼児教育の非認知能力の重要性

人は、生まれながらにして2つの能力を持っていると言われています。1つは天から与えられた才能(非認知能力)、もう1つは社会的知識や技能を学ぶ能力です。天から与えられた才能には、創造力やイメージ力、疑問を持つ力などが含まれ、個々人が独自に持つものです。また、問題解決能力やコミュニケーション能力は、自然の中でさらに発展するとされています。自然体験は、個人や集団が自然環

境に直接触れて学ぶことで、多くの教育的な利点をもたらします。特に幼児期に自然体験を積極的に取り入れることは、身体的、感情的、認知的な発達に大きな効果があります。自然とのふれあいを通して、身体的健康の向上、感情の安定、感覚の発達、想像力や創造性の育成、学習への興味や集中力の向上、問題解決能力の発達、そして環境への関心の高まりが期待されます。



ツリーイング

ハンモック



保育園での竹細工

特性ある子ども達の自然体験の取組

アペルト 野外学習支援

不登校の生徒や発達障害、自閉症などの障害を持つ子どもたちは、森での体験に参加することで大きな変化を経験しています。指導教室の先生や保護者の勧めで参加した子どもたちは、森の中で日常とは異なる学びを得ることで、興味や疑問を通じた探究心が育まれ、人との交流を通じて社会性の向上も見られます。

なかよしっ子クラブ

- 1.自然の観察 草、花、虫などの観察
- 2.感覚の刺激 森は五感を刺激、風、せせらぎ
- 3.自然とのつながり 環境に対する興味
- 4.運動の促進 自然地形の運動
- 5.想像力と創造力の育成 遊ぶことによる刺激
- 6.リスク管理の学び 危険に対する意識向上
- 7.心の安定 リラックス、ストレス解消



市民の森の説明



竹細工 (お椀作り)



流しソーメン



飯盛川の探検



魚取りに夢中



なかなか出来ないお椀

学童クラブとの連携

会員の石川さんは、従来の設定保育に疑問を感じ、最後の職場として鶴ヶ島市の学童保育室を選びました。そこでは「生きる力を育む」ことを目標に、子どもたち自身が主体的に行動し、自然に囲まれた環境の中で本音で向き合える保育が実践されていました。学童保育にはゲームやテレビはなく、子どもたちは毎日自然の中で遊び、多様な体験を重ねていました。

その中で里山サポートクラブと出会い、森での活動が学童保育に取り入れられたことで、活動の幅が

広がりました。子どもたちに自然体験を通して生きる力を養ってほしいという思いは、石川さん自身の保育観とも一致していました。

活動内容としては、オリエンテーリングやホタル観賞、森での食体験などが行われ、子どもたちは自然とともに遊び、学び、助け合う経験を積みました。これらの実践は、石川さんにとってまさに望んでいた保育の形でした。

現在も石川さんは、つるがしま里山サポートクラブの一員として、子どもたち



ロープ渡り



魚とり



サツマイモ掘り



ツリーイング

藤小学校の自然体験学習

藤小学校3年生は、7月と9月に「市民の森」で自然体験学習を行い、11月には藤金市民の森でその報告会を開催しました。

この学習プログラムでは、生徒たちが森の中で

多くの発見や興味、疑問を体験し、楽しみました。報告会「素敵な森の発表会」では、生徒たちが自然体験で得た発見や学びを発表し、素晴らしい会となりました。

市民の森の生きる自活

- 市民の森でキノコを採って、コンピュタールームでしらべました
- 市民の森のキノコをしらべると、カサウラベニカというキノコが採れました。

大谷川のこと

- 川には雑木の森がありました。むかし、ナマス、ドジョウがいたそうです
- 川の流れるは、重い石があると流れが左右に分かれ、下り流ははやく流れ、ゆるい流はおそい流れです
- 森が採って、土の下から水が出て、それが大谷川になる。おっべ川、荒川につながり東京湾に流れる
- 大谷川の水は荒川で、東京の水運の米となる

市民の森の木と葉・実

- 市民の森にはたくさんのおもしろい木、実、木の葉が採れました
- ミズナ、山ササ、コナラ、黒の本、たくさん採れました
- 木の葉はピンク、青い、オリーブ色、いろいろな色があるらしい
- 森にはおもしろい実、実はおもしろい、おもしろい実が採れました

3年 2組の発表

- 大谷川の水は東京湾へ流れている
- 森は実が採れると採れたが、外来生物やゴミが落ちてきている
- 森の森は、キノコ、生虫が採れる
- おもしろい実が採れた
- 森は実が採れると採れたが、おもしろい実が採れた
- おもしろい実が採れた

大谷川の森

- 川には何が流れるか、よきよき、えびやサリガにいます
- 川を流れているが、川を流れているが、川を流れているが
- 川を流れているが、川を流れているが

市民の森の森

- エナカ、オシロイを採りました
- 市民の森にはたくさんのおもしろい実が採れました
- 森は実が採れると採れたが、おもしろい実が採れた
- おもしろい実が採れた

市民の森の森 - 川の生き物

- 川の生き物は、外産種のアサギサリガ、カササギ、ガササギ、ウシガエル、コイなど、24種、おもしろい実が採れました
- カササギの卵を採るのもおもしろい
- サリガには400種も採れる、どこへ行ってしまおうか、川がエナカを採ったので、採れるところがなく、採れませんでした
- 市民の森にはカササギ、アサギサリガ、カササギ、ウシガエル、コイなど、24種、おもしろい実が採れました

市民の森の森

- ナハヒ、トナリ、コアガハや日本トナリガが採れました
- 森にはおもしろい実が採れました
- 森にはおもしろい実が採れました
- 森にはおもしろい実が採れました

福祉ベンチづくりの取り組み

鶴ヶ島市健康部健康長寿課と鶴ヶ島市社会福祉協議会からの依頼を受け、西中学校で地域福祉に関する学習支援を行いました。

この取り組みは、高齢化が進む鶴ヶ島市にとって大切な課題に向き合うもので、行政・企業・市民活動団体が力を合わせて進めています。つるがしま里山サポートクラブも、この趣旨に賛同して参加しました。クラブでは、里山で伐採した木を有効活用し、製材

して木工製品やベンチの製作を行っています。

今回の活動では、市民の森の危険な樹木を伐採し、乾燥・加工を経てベンチを製作しました。

完成したベンチは、重度医療身障者児童施設「ほっこり村」に寄贈しました。

子どもたちはお庭で日光浴を楽しみながら、寄贈したベンチをさっそく活用してくれています。



ほほえみの里の記念写真



西中ベンチの製作



ほっこり村への記念写真



森で伐採



伐採材を半割に



製材所で加工



ベッド型ベンチ

地域の伝統文化の体験

門松づくり

竹林を活用した親子門松づくり

門松は、年神を家に迎え入れるための依り代とされる日本の伝統的な正月飾りです。五味ヶ谷の竹林を活用し、年末には親子で門松を製作する取り組みを行っています。竹の有効活用につながるだけでなく、家族で協力して作ることで絆が深まり、地域の方々との交流の場にもなっています。



しめ縄づくり

神社を彩る注連縄づくり

五味ヶ谷市民の森の入口や、稲荷神社・御岳神社では注連縄の製作も行っています。細い縄を徐々に寄り合わせて立派な太さに仕上げる技法を用い、製法の工夫により、より質の高い仕上がりを実現しました。



ホタルの育成と再生

ホタルの再生は、高倉市民の森を流れる飯盛川で15年前に実現し、それ以降、毎年ホタルの発生が確認されています。しかし近年は、流域の開発などによる水質の影響からか、発生数が次第に減少しています。また、大谷川でもホタルの復活を目指し、市内で22年間にわたりホタルの飼育に取り組んできた高沢さんの協力のもと、太田ヶ谷の森内の大谷川で復元活動を行っています。2021年からの3年間にわたり、ホタルの幼虫の提供を受けながら

取り組みを継続し、ホタルの発生が見られます。

ホタルは、成虫が卵を産み、幼虫が水中で成長し、さなぎを経て再び成虫となるという一連の過程をたどります。そのため、各段階に応じた自然環境の維持が不可欠です。しかし、大谷川源流域では市街化が進み、地域の保水力が低下しており、十分な環境が確保されていない可能性があります。それでもなお、活動を継続することが重要であると考えています。



ホタルの放虫会



カワニナ



川に散布

各種の表彰や発表

これまでの活動で、頂いた各種表彰、感謝状は、次の通りです。

平成26年 埼玉県社会福祉協議会 ボランティア活動表彰

平成29年 鶴ヶ島市 環境保全活動表彰

令和 3年 埼玉県社会福祉協議会福祉活動表彰

令和 5年 彩の国埼玉環境大賞優秀賞

令和 5年 第34 回全国「みどりの愛護」

国土交通大臣感謝状

令和 5年 第43 回 緑の都市賞

緑の市民協働部門 国土交通大臣賞

令和 6年 第75回全国植樹祭埼玉県緑化功労賞



越谷イオンモールでの発表



佳子さまへ里山の紹介

今後の課題

昔の里山は、人々の日常生活と密接に結びつき、屋敷の防風林や畑の肥料、さらには日用品や建材の供給源として重要な役割を担っていました。自然と調和しながら暮らしていた当時の森の姿は、鶴ヶ島市高倉地区に今も残されています。

しかし、化学肥料やプラスチック製品の普及により、里山の役割は次第に縮小し、維持管理も放置されるようになりまし。今後は、この「人と森の共存関係」を現代社会に即した形で再構築していくことが求められています。

現在は、市民管理制度(借地契約)のもとで里山の維持が進められていますが、相続などの影響で契

約解除が増加しています。これまでに4か所の市民の森が解約され、全体の約50%が失われました。

このままの傾向が続けば、10年以内に市民の森が消滅する危機に直面しています。そのため、国や県の制度活用や、市による森の買い取り、新たな財源の確保が急務となっています。

- ①地域とのつながりの強化
- ②デジタル技術の活用
- ③多様な参加機会の拡充
- ④環境教育の充実と拡大
- ⑤他団体とのネットワーク強化

子どもも元気、



八十過ぎても、皆元気



20年続く大谷川掃除



子ども達と流しソーメンを楽しむ



NPO法人つるがしま里山サポートクラブ

2025版

NPO法人つるがしま里山サポートクラブのアドレス

Facebook

X(twitter)

里山クラブHP



356022201:埼玉県鶴ヶ島市園拓苑4315-2-A103

TEL0800358887866(事務局)

<http://www.sabiyamaappot.com/>